

プラスミドレポート

実験番号 PXB-MI-001
機関名 株式会社フェニックスバイオ
部署 宇都宮事業所
責任者 高橋 利一 様
担当者 高橋 利一 様

ご依頼者様への重要なお願い

1. プラスミドを含む大腸菌のシングルコロニーに由来するサンプル(精製したプラスミド、もしくは菌体)をご送付下さい。
2. インサートの切り出しに用いる制限酵素部位を決定するために、ベクターおよびインサートのシーケンスをご提供下さい。
3. ベクターとインサートのサイズの差が1kb以下の場合はアガロースゲル電気泳動によるインサートの精製が困難になることがあります。ベクターおよびインサートのシーケンス情報をご提供いただけないときは、ベクターとインサートのサイズの差が少なくとも1kb以上になるような制限酵素サイトをお示しください。

マイクロインジェクションに用いるDNAフラグメントの精製に必要な、下記の情報をご提示下さい。

プラスミド情報

サンプルの名称 : _____
クローニングベクターの名称 : _____
インサートの調整に使用する酵素 : _____

切り出されるフラグメントのサイズ : _____ bp + _____ bp + _____ bp + _____ bp

※全て列挙し、精製断片サイズに○を付けて下さい。

※ベクターとインサートのサイズの差が1kb以上であることをご確認下さい。

プラスミドセレクションの抗生物質 : アンピシリン カナマイシン クロラムフェニコール その他 _____
ベクターおよびインサートのシーケンス : 有り 無し

プラスミドの濃度 : _____ μg/μl

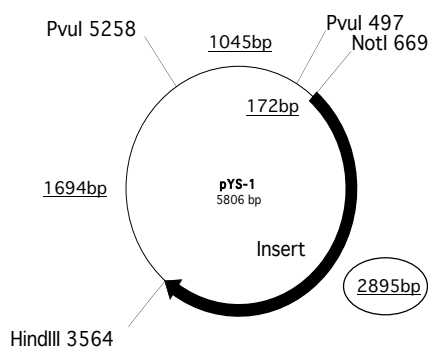
プラスミドの溶媒 : TE buffer 滅菌水 その他 _____

プラスミドマップ(手書きで結構です)

使用する酵素の名称 : PvuI + NotI + HindIII

切り出されるフラグメントのサイズ(bp) :

$$1045 + 172 + \textcircled{2895} + 1694 = 5806$$



プラスミドマップの記入例

注入するDNAフラグメントがトランスジェニック動物の発生に影響する可能性が考えられる場合の対処方法;